

# 「たはら食育推進計画」の改訂概要

## 1 改訂のポイント

- ① 本市では、平成 20 年 3 月に「たはら食育推進計画」を策定し、市民一人ひとりが「食」について改めて意識を高め、健全な食生活を実践できるよう、家庭、保育園・幼稚園、学校、地域など関係する方々のご協力のもと、食育を推進してきました。
- ② 最近の調査によると、中学 2 年生の朝食の欠食割合の減少、むし歯のない 3 歳児の割合の増加、給食における地場産物を活用する割合の増加など、食育は少しずつ進展しています。
- ③ しかしながら、小学生及び保護者の朝食の欠食割合、肥満者の割合など、多くの問題について顕著な改善は見られず、依然として食をめぐる問題が残っています。
- ④ こうした状況を踏まえ、次のステップとしてさらに食育を推進できるよう「たはら食育推進計画」を改訂するものです。

## 2 計画の目的

前計画に引き続き、「体」、「心」、「環境」に視点を置いた食育を継続的に実践することにより、『健康でうるおいと活力のある“たはら”』を目指します。

## 3 計画の期間

平成 24 年度(2012 年度)から平成 28 年度(2016 年度)までの 5 年間とします。

## 4 食育の現況と主な課題 (計画書 P4~)

### ① 「体」の視点

○朝食の欠食割合は全体的に顕著な改善はみられず

子どもや保護者自身の多忙な生活によるライフスタイルの変化や、食環境の変化により、食生活が不規則になっており、小学 5 年生の朝食の欠食割合については、2.9%と増加しています。

○肥満者の割合は全体的に顕著な改善はみられず、成人男性については増加傾向

肥満者の増加は歯止めがかからず、40 歳から 60 歳代の男性では、約 3 割に 1 人が肥満者であり、依然として増加傾向です。

### ② 「心」の視点

○家族そろって食事をする機会が広がらず

核家族化やライフスタイルの多様化により、家族団らんの機会が減少しています。家族そろって食事をすることの啓発をしてきましたが、その割合は 58.3%と広がっていません。

○地域の食文化や食事作法の継承不足

食生活が豊かになる反面、いつでもどんな食材でも手に入るようになり、「食の季節感」が失われつつあります。また、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをいつもしている家庭の割合は、53.6%にとどまっています。

### ③「環境」の視点

#### ○給食における残食率は減少傾向

魅力ある献立作成、栄養教諭などによる給食指導により、給食の残食率は、平成 22 年度に 3.1%となり、年々減っています。しかし、食べ残しや消費期限切れなどに伴う食品の廃棄は、家庭や食品関連事業者から発生しています。

## 5 計画の推進

本計画では、市民、家庭、地域、教育現場、医療保険機関、農林水産業関係者及び行政などがそれぞれの立場で食育の推進を行うこととしています。

また、総合的な視野から行政の中で連携を図り、それぞれの分野で食育を推進します。

## 6 主な取組と目標値（◇は市民の取組（計画書 P20～）、□は市や関係団体の取組（計画書 P24～））

### ①健康な「体」をつくるために

◇朝食は毎日きちんと食べます

◇生涯を通じて適正体重の維持を心がけます

□「早寝・早起き・朝ごはん」運動の積極的な推進

子どもの基本的な生活習慣を形成し、生活リズムを整えるため、「早寝・早起き・朝ごはん」運動を推進します。また、保護者に対し朝食の必要性を啓発します。

※朝食の欠食割合 小学 5 年生 2.9%（現状）→ 0%（平成 28 年度）

□肥満予防の推進

全ての年代において肥満予防の啓発や早期発見、改善に取り組みます。

※肥満者の割合 40 歳～60 歳男性 34.4%（現状）→ 15%以下（平成 28 年度）

### ②豊かな「心」を育むために

◇家族そろって楽しく食事をするように心がけます

◇食事のマナーを家族みんなで守るように心がけます

□「食育の日」の普及、家族団らんの啓発

毎月 19 日は、国の食育推進基本計画で食育推進運動を継続的に展開し、食育の一層の定着を図るため、「食育の日」と定められています。家族や友人と一緒に楽しく食事をとることを普及啓発します。

※家族そろって食事をする人の割合 58.3%（現状）→ 80%以上（平成 28 年度）

□子どもに対する食事作法の習得

食事作法などのしつけは家庭で行うことが大切です。家庭における食事作法の習得が行われるよう啓発を行います。

※食事のあいさつをしている家族の割合 53.6%（現状）→ 70%以上（平成 28 年度）

### ③「環境」に優しい暮らしを築くために

◇買いすぎ、作りすぎに注意して、食品の無駄をなくします

□「もったいない」意識の普及啓発

身近な食生活における環境への負荷の軽減のため、「もったいない」意識の浸透を図り、環境に優しい料理の推進や食品リサイクルの実践促進に取り組みます。

※むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合 42.4%（現状）→ 60%以上（平成 28 年度）